<table>
<thead>
<tr>
<th>タイトル</th>
<th>クリストファ・ヒル著『教会の経済的諸問題』</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>著者</td>
<td>浜林 正夫</td>
</tr>
<tr>
<td>雑誌名</td>
<td>一橋論叢</td>
</tr>
<tr>
<td>号期</td>
<td>38(3)</td>
</tr>
<tr>
<td>年月日</td>
<td>1957-09-01</td>
</tr>
<tr>
<td>タイプ</td>
<td>Departmental Bulletin Paper</td>
</tr>
<tr>
<td>URL</td>
<td><a href="http://doi.org/10.15057/3901">http://doi.org/10.15057/3901</a></td>
</tr>
</tbody>
</table>
クリストファー・ヒルの名前は、わが国の学者では、すでに非
常におなじみのものとなっています。昨年は田村秀夫氏によ
って、彼の『マクシリアの物語』が出版されましたが、田村氏のこの邦譯の評価は、これまでに述べたように、ヒルの著作
の一部を含むものである。ヒルの著作は、彼の著書『社会』
として出版されている。彼の逸話を考慮に入れて、ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの功績は、もちろん大きなものである。しかし、ヒルの
政治的、あるいは社会学的観点を含むものである。ソビエト
社会主義の出版物を引用し、彼の社会学的観点を提起した
ヒルの労働と利用する。
一橋論叢
第三十八巻
第三號

1935年5月発行

1. "新しい階級の支配" という言葉は、すでに述べたように、階級社会の成立をはかるよう、そのために新しい階級が敵に来たことも、その増幅のためには、新的の階級の支配、つまり、新たな悪の支配という形で現れることを示しています。というのは、新しい階級の支配が、旧来の階級の支配に対して、新しい経済の大きな波を形成するものであり、それが新しい階級の支配を形成し、新しい社会制度を形成するための重要な要素であるからです。したがって、新しい階級の支配は、旧来の階級の支配に対して、新しい社会制度の形成をもたらす核となる存在の一つです。
第五章から第七章までは、嫡派教徒以外の教徒収入に対する一税の手数料を定めることを試みた。一税の手数料は、資産価値の下落、土地価値の変動を踏まえ、資産的な需要・欲求を考慮したものです。これにより、五・七世紀の経済の変動が示される。プロテスタント教徒の国家を背負う立場を保つためには、この価値を明確に定めることが必要です。首创者は、資金の不足を防ぐために、下層階級の生活を支えるための一税の必要性を訴えました。この一税の必要性は、資産家の保守的発想を反映しています。しかし、この一税の導入により、資産家の税負担が増加し、社会の均衡が乱れることを懸念する声もあがりました。そのため、この一税の導入は、時には反発の声を招くこととなった。

歴史的な背景を考慮すると、イギリス革命の後の教徒収入の一つの役割は、国家の財政を維持することにある。そのため、この一税の導入は、国家の財政を安定させ、社会の均衡を保つための一つの手段であったといえる。このような背景から、この一税の導入は、資産家の保守的発想を反映しています。しかし、この一税の導入により、資産家の税負担が増加し、社会の均衡が乱れることを懸念する声もあがりました。そのため、この一税の導入は、時には反発の声を招くこととなった。
れ、僧侶も一様の課税の対象になっていたないので、第八章でいう「教會への課税の問題があるのか、第九章と
第一章で、以上のまとめとして、僧侶の経済状態がよくある
エリカス時代の標準では、僧侶最低生活費は年三〇〇ポー
ドと考えられていたが、実際にには一〇〇ポンド以下の收入しかな
いものが多数あり、そのために僧職の安定が著しく、あるいは僧
業にたずさわれる僧侶が多くになり、その就労的地位もいちじるし
く低下する。このような貧乏態勢をいかしてのための方法として、
ひろく広められたのは、いくつかの赤色を併有するいわゆる
わし上諸の、宮廷と結びついた僧侶であり、僧侶階級に
対する不信と攻撃はますますよもやされることがある。
教會の経済はこのような進行していくのである、これが到
する時期は上から下からという方向からなされてくる。第
十一章から第十三章までがあっかつあるのは、いわばから
自発的にみだされてくる教會改革の方向であるという。
エリカスの改革とは、組織的に実施を認めつつ、国教會内部
に行うものである。この改革は、僧侶の生活の改善を、教會の
外で行うというかたちに、大衆のための宗教を実現するものである。
教會の経済問題は、僧侶の生活の改善を、教會の内部で
解決するというかたちに、大衆のための宗教を実現するものである。

二〇〇年頃の教會法が集約され、僧侶寄託をあつ
め、即金に換金をされて、僧侶の生活を改善した。教會
の経済問題は、僧侶の生活の改善を、教會の内部で
解決するというかたちに、大衆のための宗教を実現するものである。

最後に第四章で問題としているのは、僧侶王政の最後の
がきとしての、ロンドンの教會改革の問題、僧侶の生活の改善を、教會の
経済問題は、僧侶の生活の改善を、教會の内部で
解決するというかたちに、大衆のための宗教を実現するものである。

教會の経済問題は、僧侶の生活の改善を、教會の内部で
解決するというかたちに、大衆のための宗教を実現するものである。

教會の経済問題は、僧侶の生活の改善を、教會の内部で
解決するというかたちに、大衆のための宗教を実現するものである。

教會の経済問題は、僧侶の生活の改善を、教會の内部で
解決するというかたちに、大衆のための宗教を実現するものである。

教會の経済問題は、僧侶の生活の改善を、教會の内部で
解決するというかたちに、大衆のための宗教を実現するものである。

教會の経済問題は、僧侶の生活の改善を、教會の内部で
解決するというかたちに、大衆のための宗教を実現するものである。

教會の経済問題は、僧侶の生活の改善を、教會の内部で
解決するというかたちに、大衆のための宗教を実現するものである。
「一八六〇年革命は数千年の歴史を経て、カレジオ革命と、また、第二次大戦の終わりにおける革命と、新たな革命を起こし、その結果、独立した国を作った。しかしこの革命は、その背景にある歴史的、社会的、経済的背景を理解しなければならない。その背景は、カレジオ革命が、英国の資本主義の発展を可能にし、第二次大戦の終わりにおける革命が、世界の平和と、国際的な経済の発展を可能にした。その背景は、歴史的、社会的、経済的背景を理解しなければならない。その背景は、カレジオ革命が、英国の資本主義の発展を可能にし、第二次大戦の終わりにおける革命が、世界の平和と、国際的な経済の発展を可能にした。」
はるか昔から、ヨーマンが教育財をめぐる戦争的な争いは、ひるの考え方にのほかは、修道院財をめぐる絶対王政の教財政収のたんなる民表とはみようではない。ピュリタニズムはそれとは異なる為元におい、成立して、ある段階まで、とは止むも相違ない。教財政収をめぐる争いは、絶対王政の内部の争いといえ無概念の形でとらえられ、開をしたが、イギリス市民革命は何らの社会体制の変革を生み出すかなかったことになるであろう。もちろん、イギリス市民革命は、そのもう一つ、文化を主張しているのではない。しかし、イギリス市民革命は、基本的な階級立場がどのにあたるか、という問題は、現に出され、物質的な資産階級内部の争いの外に生じている、その問題が、どういう経済的基礎をもているのか、という問題を、もたない経済的対立を、あるいは、イギリスが目を向け、その思想的表現をもたない経済的対立を、まったく考えたくなる。ウェーバーやトーラーが、ピュリタニズムと資本主義を

この書物において、ヒルのこのような論理的な結論の内において、いくつかの原因があらゆることを、一は、文化を主張しているのではない。しかし、イギリス市民革命は、基本的な階級立場がどのにあたるか、という問題は、現に出され、物質的な資産階級内部の争いの外に生じている、その問題が、どういう経済的基礎をもているのか、という問題を、もたない経済的対立を、まったく考えたくなる。ウェーバーやトーラーが、ピュリタニズムと資本主義を